

2014 JCF J1 TIOGA びわこ高島 STAGE (滋賀県) レースレポート

BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM 齊藤 亮

+++++

大会名：JCF J1 TIOGA びわこ高島 STAGE XCO 第 1 戦

期日：2014 年 5 月 4 日 (日)

会場：滋賀県高島市 朽木スキー場 / 朽木スノーパーク内 TIOGA マウンテンバイクパーク

天気/気温：曇晴 / 20℃

競技種目：男子エリート StartLoop1Lap + 4.2 km x 5 Laps

参加数：89 名

結果：優勝

Web：<http://www.846.info/>

+++++

2014 年のシリーズ戦 (J1) の幕開けとなるジャパンシリーズ第 1 戦のびわこ高島大会。シリーズの開幕戦はどの選手、どのチームにとってもやはり特別なもの。一昨年、昨年とシリーズ戦を制しシリーズチャンピオンを獲得した。今年のゼッケンナンバーもチャンピオンの証でもある「1」。この「1」を付ける喜びと重圧。追われる立場へ変わるプレッシャーもこの「1」の宿命だ。

今レースは GW 期間ということもあり、交通渋滞や長時間の車移動なども考慮した上でレース 2 日前に現地入り。初日は固まった体と筋肉を解す程度に琵琶湖周辺をリカバリーライド。先週の W 杯の疲れも然程感じることなく、身体の調子も悪くない。レースに向けて自分のイメージをしっかり持ち、心と身体の両方を整えていく。レース前日、10 時過ぎに会場入りして準備開始。今レースから愛車である「ANCHOR-XR9」のフレームサイズを M サイズから S サイズに変更してバイクをセットアップ。チームスタッフが早朝から機材の調整を行ってくれているお陰で何の問題も違和感もなくバイクに順応することが出来ている。機材調整やスタッフとの打ち合わせを終え、コース試走開始。昨年のコースとは若干の変更があるものの 7~8 割方は同コース。路面状況はほぼドライコンディションで走りやすいものの、石砂利を敷き詰められ完全に乾ききった下り路面は非常に滑りやすい。タイヤ選択にはあまり悩むことなくドライ系タイヤをチョイス。コースはスキー場の傾斜に設定され、平坦がほとんどなく登って下るというタフなコース。下りは縦の動きが多く、ドロップオフ、スイッチバック、逆キャンバー、ウィップ・・・などバリエーションが豊かな故に休みどころがなくテクニックが必要とされる。登りもパワーケライムを中心にバランスの取れたコースと言える。コース試走を 3 周したのち、スタッフやサプ라이어さんとの打ち合わせを済ませ会場を後にした。

天候は予報通りレース当日も晴れ。しかし少し風が強くと肌寒く感じる。早朝からチームスタッフは会場入りし、レースバイクを最高の状態に仕上げ選手を迎えてくれる。レース 2 時間前に会場に到着するといつも通りホルメンコールのサービスマンがバイクフレーム・チェーンのこ

ーティング作業をしてくれている。何度も話し合いを重ね、テストを繰り返し、常に妥協せず最良のケミカル選択をしてくれるので不安要素は全くない。スタッフ、サプライヤーとの一心同体ともいえる最高の準備が自身のモチベーションに繋がり、その思いがバイクにも乗り移っているのを感じるのだ。

男子エリートのスタートは14時15分。万全の状態ですスタートラインへと送り出してもらおう。定刻通り2014年度ジャパンシリーズ開幕のスタートが切られた。課題のスタートダッシュも失敗することなく、落ち着いてクリートをキャッチ。お決まりとなった勢いのある若手2選手が先行するカタチでレースが展開されていく。様子を見ながら冷静に相手の出方を見極める。1周目から中原選手（Cannondale）が積極的に先頭に出てレースを引っ張る。しっかりとマークしつつ走り方やライン、勝負所を自分なりに窺う。予想通りの展開ではないが、2周目中盤でペースを上げて先頭に立ちレースを展開。後続の様子を窺いながらも積極的にペースを上げて周回を重ねる。4周目で後続のペースが落ちているとの情報が入ったので、そこを見計らうようにトルクを掛けて渾身のアタックで後続との差を広げる。ここからは独走体勢に持ち込むため、緩急を付けた走りであまく乳酸を処理しながらレースを組み立てていく。後続とのタイム差を意識しながらも自分の走りに徹する。



今の自分の力と技を全て出し切り、2位に56秒差を付けてフィニッシュした。最後の最後まで集中して追い込みトップでゴール。何度味わっても最高に気持ちのいい瞬間。ゴールラインではいつも温かく向かい入れてくれるスタッフや関係者の笑顔を見ると、自分も自然と笑みが出る。



今シーズンは色々と噛み合わないことも多く、正直フラストレーションも溜まっていた……。しかし悔しい時も嬉しい時も常に一緒に戦い、支えてくれたスタッフ、サプライヤーの皆が何よりも心の支えとなり心強くレースに集中することが出来た。レース中に感じたこと、終わって気付くこと、全てをしっかりと受け止めてまた次に進んでいきたい。

次戦は来週末（5月25日）に愛媛県八幡浜市で行われる八幡浜国際クロスカントリー大会（J1）。これから毎週末レースが続き、タイトなスケジュールになっていくが、自覚と責任を果たし、次戦も自分らしい走りをしたいと思う。

チームスタッフを始め、サポートして頂いたサプライヤーの皆様、応援して頂いている皆様、

いつも献身的なサポート、ご支援本当にありがとうございます。国内シリーズもいよいよ幕を明け、更に上を目指し飛躍していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



【リザルト】

1. 齊藤 亮 長野県/ BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM
2. 平野星矢 長野県/ BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM
3. 千田尚孝 愛知県/ 自転車村 R シーラカンス
4. 中原義貴 大阪府/ Cannondale
5. 小野寺健 京都府/ MIYATA-MERIDA BIKING TEAM
6. 沢田 時 滋賀県/ BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM

【使用機材】

バイク：ANCHOR / XR9

コンポーネンツ：SHIMANO / XTR FC-M985

ホイール：SHIMANO / XT WH-M785

シューズ：SHIMANO / SH-XC90

ペダル：SHIMANO / PD-M980

ハンドル：SHIMANO PRO / XCR

ステム：SHIMANO PRO / XCR

シートポスト：SHIMANO PRO / XCR

フロントフォーク：SR SUNTOUR / AXON-WERX-RC-RL-RC AH CTS 27.5/100MM

タイヤ：BRIDGESTONE / EXTENZA XC (27.5×2.1)

サドル：fi'zi:k / TUNDRA

ヘルメット：KOOFU / WG-1

サングラス：adidas eye wear / evil eye halfrim pro / LST アクティブ S ライト

ケミカル：HOLMENKOL

チェーン：ルーベエクストリーム

フレーム：スポーツポリッシュ

アクアスピード

ウェア、シューズ：ハイテクプルーフ

サングラス：ノーフォグ

時計：SUUNTO / AMBIT2S

メーター：パワータップ G3 プロ MTB ハブ / ジュール GPS

ネックレス：SEV

ドリンク：SAVAS (株式会社明治)

サプリメント：SAVAS (株式会社明治)

レースウェア：WAVE ONE

レースグローブ：KABUTO / PRG-3

アンダーウェア：CRAFT

インソール：SUPER feet / Black

アパレルウェア：Columbia

ザック：deuter

テーピング：New-HALE

